京都の民主運動史を語る会
会　報

2014年7月15日
第213号（隔月刊）

題字　住谷悦治

燎原

燎　原　社
（京都の民主運動史を語る会）
代表　井口和起
事　務　局
京都市左京区高野東開町1-23
第三住宅33-302　井手幸喜
〒606-8107
tel & fax075（722）3823

【連　載】

京都の民主運動史 史跡散歩 ⑥

谷口善太郎顕彰碑（東山・東大谷墓地）

京のまち一望する地に

谷善の顕彰碑・墓は円山音楽堂横の大谷廟参道を登り墓地の「特1区」看板をまっすぐ東へ。突き当たり西向きに建っている。京都の街が一望できる。

谷口善太郎（1974年6月8日没、享年74歳）。政治家（共産党衆議院議員団長）であり、「綿」「清水焼風景」などで有名な戦前からの作家でもあった。蜷川知事が「京のまち　京のひと　谷善の顔がある」と詠んだほど府民から慕われていた。

顕彰記念碑は東山区大谷廟内の谷口家の墓の隣に建つ。碑文は谷善の好んだ杜甫の句「守道不封己」（道を守って己を封（あつ）うせず）が鞍馬石に刻まれている。「自分だけの利益をはかるようなことはせぬ」という意味。当時、京都府副知事だった松尾賢一郎氏が所蔵していた自筆の書である。76年9月23日に除幕式が営まれた。

今年は没後40年、6月1日には墓前祭と「偲ぶ会」が実行委員会主催で開かれ、また『谷善と呼ばれた人―労働運動家・文学者・政治家として』（谷口善太郎を語る会編、新日本出版社）の出版、月刊「ねっとわーく京都」6月号特集「いま谷善を語る」など、谷善の歩んだ道から学ぼうとする動きが活発になってきている。

2014年度総会ひらく　新代表に井口和起氏就任、原田敬一氏が記念講演　2
私の一期一会 ⑩　元京都市議・京阪電車運転手 坂口芳治氏に聞く　佐藤　和夫　4
『谷善と呼ばれた人』を書きながら考えさせられたこと　松尾　隆司　7
私の文化・労働運動史 断片　堀　昭三　8
研究ノート 京都勤労婦人連盟 ③　井上　とし　10
〈この1枚〉1958年1月の京都市長選　13／総会への出欠はがきから　14／随想「替　歌」　橋本安彦　15
BOOK『京都丹波、岩崎革也旧邸保存の取り組み』　6
9月例会の案内　16
会員消息／情報スクラップ／編集後記　16

【京都の民主運動史を語る会】年会費（会報代とも）3,000円　郵便振込口座　01060-7-15762　加入者名　燎原社

新代表に井口和起氏

岩井氏は名誉代表に

京都の民主運動史を語る会の２０１４年度総会が７月５日午後、市職員会館かもがわで開かれ、４０数人が参加、新しい方針を決めるとともに新世話人を選出、代表には井口和起氏（京都府立大学名誉教授）が、新たに名誉代表に岩井忠熊氏が就任しました。

例会充実と会員拡大など方針

総会では岩井代表が開会あいさつ、井手事務局長が会務を報告するとともに、会則を改正して「代表世話人」に加え「名誉代表・顧問を置くことができる」とし、91歳になられた岩井代表を名誉代表に、新たに井口氏を代表に選出することを提案、承認されました。

今年度の方針として、・入会の栞を作成して会員拡大をはかる・聞き取りや歴史の掘り起こし、例会と「燎原」誌面の充実などを決めました。

新代表に選ばれた井口氏は、府立大学を退職後10年間ずっと関わっている府立総合資料館での経験を述べ、庶民の暮らし・運動の記録を残し、後世に伝える本会の活動のお役に立てればと思っている、と抱負を語りました。

総会に先立ち原田敬一・佛教大学歴史学部教授が『「戦後」から「戦前」へーもはや「戦後」ではない』と題して記念講演、政治史の視点で現代の状況を分析しました（別掲）。７月１日に、安倍政権が「集団的自衛権」を閣議決定した直後とあって、関心も高く講演後も質問や論議が続きました。

総会に続き懇親会が開かれ、岡山から参加された松岡健一さん（水島協同病院名誉院長）が１９４９年、京大病院の闘争で医学部を放校された体験とその後の人生を語ったのを始め、参加者全員が自己紹介を兼ねて発言、交流しました。

世話人会の構成

名誉代表　岩井忠熊
顧問　川合葉子・田北亮介
世話人
代表・井口和起
事務局長・井手幸喜（会務担当）
「燎原」編集担当・湯浅俊彦
例会担当・小田切明徳
会計担当・沼本耕典
黒住嘉輝・佐藤和夫・
原田久・馬原郁
編集協力・須田稔
ＨＰの管理・今村修

執筆者紹介

佐藤和夫（さとう・かずお）　本会世話人、前京都市議。伏見区在住。
松尾隆司（まつお・たかし）谷口善太郎を語る会。元京都教職員組合障害児教育部部長。
堀　昭三（ほり・しょうぞう）元・京都府文化事業課長、文化芸術会館館長。上京区在住。
井上とし（いのうえ・とし）　女性史研究者。山科区在住。
橋本安彦（はしもと・やすひこ）　平和のための舞鶴戦争展実行委事務局長。舞鶴市在住。

2013 年度収支報告書

（自　2013 年４月１日・至　2014 年３月 31 日）

（円）

項　目	決　算	予　算	差　額	備　考
（収入の部）	**567,419**	**481,000**	**△ 86,419**	
会費収入	528,000	400,000	△ 128,000	176名. うち 未収入額 156,000円（52名）
賛助会員収入	35,000	40,000	5,000	
カンパ収入	0	20,000	20,000	
その他の収入	4,400	20,000	15,600	例会参加費　1400円 合本　3000円
受取利息	19	0	△ 19	
雑収入	0	1,000	1,000	
（支出の部）	**639,173**	**481,000**	**△ 158,173**	
総会費	56,500	60,000	3,500	
会議費	3,400	15,000	11,600	
監査委員会費	3,792	5,000	1,208	
会誌発行費	179,154	180,000	846	
通信・発送費	111,051	130,000	18,949	
備品・消耗品費	31,211	30,000	△ 1,211	
運営費	0	20,000	20,000	
旅費	6,140	40,000	33,860	
雑費	830	1,000	170	
雑損失	247,095	0	△ 247,095	世話人会決定により2009年度までの未収入会費を処理
当期収支差額	**△ 71,754**			
前期収支差額	**374,560**	**374,560**		
次期繰越収支差額	**302,806**			

総会での記念講演（概要）

「戦後」から「戦前」へ
―もはや「戦後」ではない！
政治史の視点で現代の状況を読む

原田 敬一
（佛教大学歴史学部教授）

1 「五〇年戦争」という視点

近代日本の外交政策は、中国を政治的経済的に「確保する」ことが基本であったということから、日清戦争からアジア太平洋戦争の五二年間を通して「五〇年戦争」というとらえ方をする必要がある。その間「戦後」と「戦前」が繰り返された。同様に一九四五年以後の歴史にも言えるのではないか。

2 「戦後」の始まり!?

★日本本土の対占領政策模索と植民地の混迷

八月一五日は「天皇の聖断」をクローズアップさせる政治的なもの。

御前会議がようやく八月一〇日午前二時半に、国体護持を条件としたポツダム宣言受諾を決定。この決定は、直ぐさま連合国へ申し入れられ、同日午後八時過ぎ、日本の海外放送が、ポツダム宣言受諾申し入れの事実を伝えた。この短波放送を聞いた外国駐屯の日本軍司令部や、重慶の中華民国政府などは、日本が降伏した、と大騒ぎとなっている。条件附きではあれポツダム宣言受諾が大筋なので、この日を日本敗戦の日としても構わない。最終的な受諾は八月一四日。国際法上の日本降伏は降伏文書に調印した九月二日。

日本の軍事機構は姿を消すが幹部軍人は多数生き残り、「戦後」を画策していた。内地は「国体護持」の上、権力機構も政治指導部も温存された。外地植民地の「戦後」は、米ソに丸投げされ、大日本帝国の責任は放棄された。

★軍部は、「戦前」「戦中」をつなぐ「戦後」を夢想していた。

幹部軍人は、ポツダム宣言受諾直後から「戦後」を構想し、「大東亜共栄圏」を夢見ていた（有馬哲夫『一九四九年の大東亜共栄圏』（新潮新書、二〇一四・六）。

第一は中国の山西省で、一九四九年四月まで日本の「特務団」という軍隊が戦っていたこと。国民党と日本の軍司令官・参謀長の密約と河本大作（張作霖爆殺事件の主謀者）山西産業社長の野望（戦後も山西省の資源を確保し、大東亜共栄圏を実現する）に基づく。

第二に国民党やアメリカと協力して軍隊の復活を謀る。辻政信、辰巳栄一、服部卓四郎ら（湯淺博『吉田茂の軍事顧問 辰巳栄一―歴史に消えた参謀』文春文庫、二〇一三・七）。服部卓四郎は、米軍に提供する大東亜戦史を作成し、対ソ諜報や対ソ作戦立案に従事。

一九四九年五月から計八三名の「参謀団」が台湾で中華民国軍の教育や作戦に協力。帰国は一九六九年（中村祐悦『白団（パイダン）―台湾軍をつくった日本軍将校たち』（芙蓉書房、一九九五・六）

第三にアメリカの後押しで旧軍人や吉田茂、鳩山一郎らは再軍備を構想し始める。GHQは、宇垣一成を中心に、もと大本営参謀らによる秘密機関を養成し、宇垣らの「義勇団から国防軍へ」の構想が育てられる。自民党の「自主防衛」は初めからアメリカのための軍隊づくりだった。服部卓四郎の再軍備案（「日本は国防軍を持つべきか」一九五一年末か一九五二年初めと推定）は、一五～二〇個師団（二〇～三〇万人）の陸軍、一〇〇〇機の空軍、二万トンの海軍。

3 1945年以後の日本

東アジアの戦争と日本の関わりの強さを考え、「戦争」を軸に戦後史を構想。戦争への参加の強要と反戦運動の展開という対抗関係が見える。試案は以下。

一九四五～一九五〇 戦間期（「戦後」＝「戦前」の時期）

一九五〇～一九五三 **戦時期**↑平和擁護運動、全面講和運動、四・二八など

朝鮮戦争に日本は参加していた。千人の「特別掃海隊」（海上保安庁、一九五〇年一〇月から一二月まで四六隻の掃海艇等が朝鮮半島の機雷撤去作戦に従事）。

二千数百人のLST（仁川上陸作戦に三〇隻、元山上陸作戦に二三隻参加。一九五〇年の半年で五六人が触雷で死亡）。数千人の韓国での荷役作業。日本全土の米軍基地利用。日赤病院など病院一四ヶ所提供（城内康伸『昭和二十五年 最後の戦死者』（小学館、二〇一三・一二）。

一九五三～一九六四 戦間期（「戦後」＝「戦前」の時期）：高度経済成長期。一〇・二一反戦ストライキなどヴェトナム反戦運動が広く深く展開。米軍のLSTに日本人船員が乗り組み、輸送に従事し、沖縄や本土の米軍基地が攻撃に利用された。

難航していた日韓会談は、ヴェトナム戦争との関わりから急速に進展し、一九六五年六月二二日日本の首相官邸で、日韓基本条約と四協定に調印。日韓の市民や学生の反対は強く、韓国政府は調印前日の二一日非常警戒令を発し、ソウルなどを押さえた。日本との経済協力を確保した韓国・朴政権は、七月二日一個師団の南ヴェトナム派兵を決定し、米韓協力してヴェトナム人民の戦いに挑む。

一九七三～二〇〇一 戦間期

二〇〇一～現在 **戦時期** 二〇〇一年九月一一日の事件以来、世界は対応に戸惑っているのではないか。二〇〇四年六月一〇日の九条の会アピール発表、今年三月四日の戦争をさせない1000人委員会発足など市民運動は広がっているが、自民党の攻勢はそれ以上に強い。正念場として踏ん張る必要がある。

私の一期一会 ⑩

元京都市議・京阪電車運転手
坂口芳治さんに聞く

インタビュアー
佐藤和夫
（本会世話人）

坂口芳治さん（元・京都総評副議長、京都市議8期）は、『私の心の原点』（株式会社ウインかもがわ・2001年5月）を自費出版しています。「子どものころ戦争があった」「電車の運転と労働組合」「議員活動」の三部構成ですが、そこではあまり触れていない点を中心にお話しするとともに、奥さんの坂口賀壽子（旧姓日名、1935年4月9日生、2013年9月25日没）に係わる思い出もお聞きしました。

――坂口さんは、1936（昭和11）年3月19日に京都市伏見区横大路に生まれました。あの陸軍皇道派の青年将校が第1師団約1500人の兵隊を連れ政府要人を暗殺し永田町を占拠した軍事クーデターの2・26事件のあった年です。そして、1971（昭和46）年4月の一斉地方選挙で35歳の坂口さんは伏見区二人目の日本共産党京都市会議員に当選されました。先輩議員の西口克己さんに党の議員とはかくあるべしといわれた例の「思い出のひとこと」をご紹介下さい。

坂口　どこをとっても、よその議員に負けるな。万年筆のさしかたも、背広の内ポケットにしなさいと一番はじめに言われましたね。市会の複数議席は、4年前に同じ京阪の車掌出身で民青地区委員長の中川盛男君が挑戦して果たせなかったこともあり、選挙通を自認する全日自労の活動家の出口勇さんから、「まさか当選するとは思ってなかった」とまでいわれました。自分では当落を気にせず、全力を出し切ったということにつきますが。

国家試験一期生の運転手

――さて、坂口さんの略年譜に沿ってお聞きします。1954年3月に桃山高校を卒業され、合格した公務員はスト権がないからと忌避し、民間企業の京阪電車に入社。中書島駅の改札係が振り出しとなり、翌55年4月に立命館大学二部経済学部にも入学します。非番の時間がもったいなかったとのことですが、このとき同じ京阪電車から黒住嘉輝さん（元府立高教組委員長・本会世話人）も勤労学生として立命館大学文学部に入学しています。仕事と組合活動と勉学の両立ならぬ三本柱の活動ですが。

坂口　実は、電車の運転手になるには国家試験合格が必要となり、1957年10月に僕は国家試験第1期生として一番若い運転手となりました。組合活動で目立ったのか、本社運転旅客課に不意に配転されたり、深草列車区内勤係に移動されるなど、とにかく会社は切り崩そうとしました。1958年ごろの深草列車区時代に、職場の文学サークルの同人誌「はだか」を再刊し、編集、原稿集め、ガリ切り、10円での販売などなんでもござれでやりました。その当時の仲間が黒住さんたちです。

当時、黒住さんの忘れられない詩があります。〝失対のおばちゃんが電車の切符を買うとき、握りしめていたなけなしの五円玉と一円玉のぬくもりがつたわった〟というような生活詩でしたが、深草下川原にあった黒住さんのアパートで、「資本論」や「経済学教科書」などの学習会をやりながら、賃金のこと、労働組合のことなどを学びあっていた時期のものでした。学習する仲間は、強いし、ぶれないと実感したものです。

京阪電鉄の大先輩・松村茂さん（左）と

仕事・組合・勉学の三本柱

2年遅れで届いた父の戦死公報

――この同人誌「はだか」（1959年12月号）に発表した「やきばの弾」では、敗戦直後小学校四年生頃に横大路のゴミ焼却場で、進駐軍のものらしい小銃や機関銃の実弾をひろい、トンカチで薬きょうの横腹をたたいて弾頭をとりだす遊びの話をのせています。小銃の弾頭を地面に埋め込んで、信管の尻に釘をあてて金槌でたたいたら、暴発し目の廻りをけがした子どももいたこともあった。1957年の米軍基地に薬莢拾いに来た農婦を射殺した米兵

「ジェラード事件」を彷彿させる危ない話ですが、旧陸軍の16師団の出征光景や敗戦後の復員してくる兵隊の軍靴が家の前の砂利を踏みならしながら近づく音に自分の父親のものではと期待する切ない話や、フィリピンのレイテ島での戦死公報が戦後2年も遅れて届くその理不尽さなど、坂口さんの戦争を二度と許すまいの思いがよく伝わってきます。

坂口　この話は、長いこと人に話したことはなかったのです。当時の気持がよみがえって胸が詰まり、口にできませんでした。しかし、いま言っておかねばという気持になり……。

――1959年3月立命館大学二部経済学部を卒業し、翌年5月に京阪電鉄労働組合の中央委員に当選（非専従）し、60年6月には安保反対の東京デモにも参加しています。その9月10日に日本共産党に入党しました。61年6月に京阪労組の京都支部長（組合専従）になり、京都総評副議長を兼務しました。62年10月に運転手に戻り、労組の中央委員にも当選しました。いろいろドラマがありました。

教育大生が描いた似顔絵（初当選の時）

60年安保で入党、京都総評副議長も

さて、ドラマもドラマ。1963年3月に旧姓・日名賀壽子さんと結婚しました。京都絵画専門学校校長から立命大教授となった浮世絵などの研究家・中井宗太郎先生・あい先生のところに下宿されていた京都学芸大学生（現・京都教育大学）だった賀壽子さんが、1965年3月に亡くなられた宗太郎先生の追悼集「桃花流水」に追悼文をのせています。中井宗太郎とあい先生に気に入られ養女になるお話も一時あったにや聞いています。

日名賀壽子さんは大学時代から結婚するまでの丸八年間、中井宗太郎先生が立命館大学を退職されてからの丸八年間、「桃山オアシス」というか「サロン・ド・ナカイ」というか、そのマドンナですが、そもそもの出会いは？

中井宗太郎宅で出会った彼女

坂口　中国の龍門の石窟や中央アジアの絵画にも造詣の深かった中井宗太郎先生のお宅に日中友好協会伏見支部が置かれ、その事務局長を1961年当時彼女が引き受けていました。中井先生は新中国に大変な関心を寄せていました。その関係で彼女は日中友好協会の事務局を引き受けたと思います。餃子の会や文化講演会や映画会など多彩な催しをやり、僕もさそわれて会員になっていました。餃子の皮など市販されていませんでしたから、皮からつくって、水餃子をたべました。また、中国から来た友好団との交流会などもしました。

1963年3月に結婚するときの仲人は、1959年3月の立命館大学卒業時の経済学部長だったマル経の武藤守一先生でした。たしか、一般教養課程の経済原論を教わった関係でした。勤務の関係で京阪電車の制服のママ、広小路の教室で授業を受けることもありましたから先生にも目についていたと思います。

――この追悼集には儀我壮一郎先生の恵巳夫人も、宗太郎先生の臨終前後の様子などを書いておられますが、何か思い出ではございますか。

坂口　儀我壮一郎先生も大阪市立大学の経済学部で革命中国の経済建設などを研究されていましたし、恵巳さんは賀壽子と一緒に日中国交回復に向けた友好運動に一生懸命でしたね。新婦人の岩井圭子さん、川上よう子さんなど熱心な方がたくさんいらっしゃいました。1953年2月に日中友好協会京都府連合会が結成され、その伏見支部の日中友好運動は全国表彰も受ける程でした。先生のところに僕もカンパ集めによくお宅を訪問しました。

儀我壮一郎先生のことなど

――この頃、儀我壮一郎先生も、「現代中国の企業形態」（森山書店、1959）、「中国の社会主義企業」（ミネルヴァ書房、1965）など出版されていますが、「中国革命史」（池田誠他と共著・法律文化社、1965年11月発行）所収の「第四章　魯迅・中国の革命的知識人」や「第六章　中国と世界の人民はかならず勝利する」などは、中ソ論争でソ連からの経済協力をたたれ、「自力更生」という調整期に入っていた中国を日中国交回復運動などでささえるべきとの気持がにじみでていますね。

当時、恵巳さんから夫の軍人だったお父さんが張作霖の乗った列車に乗っていて爆殺のまきぞえになりかかったという話をききました。

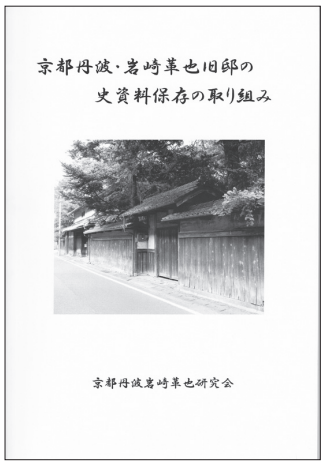
坂口　そうですね、1928年6月4日、満州軍閥の張作霖が関東軍河本大作参謀によって爆殺されますが、その列車に張作霖の軍事参謀に送り込まれていた壮一郎先生の父親

『京都丹波・岩崎革也旧邸保存の取り組み』

岩崎革也研究会刊

BOOK

貴重な資料保存運動の成果



『岩崎革也邸は京都縦貫自動車道延伸工事のために既に取り壊され更地となり、旧邸の真ん中には自動車道を支える巨大な支柱が立っている。取り壊しが迫ったなか、急ぎすめられた旧邸資料の保存運動は地元や関係の研究者等の叡智をあつめ、自治体やマスコミまで巻き込んだ運動として展開された。

結果、岩崎家資料は、南丹市立文化博物館に保管され、今後、博物館と革也研究会との共同研究がすすむことになった。当面は大正6年から昭和18年までの革也日記の解読がおこなわれる予定と聞く（『燎原』209号～211号でも、『京都新聞』丹波版に連載された「革也と丹波―岩崎旧邸の新資料をめぐって―」を転載させて頂いた）。

今年の1月、この間の資料保存運動の経過、資料保存の取り組み、旧邸見学会や講演会の記録等を収録した『京都丹波・岩崎革也旧邸保存の取り組み』が（A4版・105頁）が、京都岩崎革也研究会から刊行された。ふんだんに写真を掲載し、岩崎旧邸や資料整理・調査の際の写真も掲載されており、ビジュアルに取り組み状況が紹介されているのもありがたい。

取り組みを振り返った研究会メンバーの思いや革也研究の論考も収録、講演会で配布された資料もそのままに、更に部分的な収録とされている革也の蔵書目録、関係類別資料仮目録も収録されている。

頒価1000円。連絡先＝南丹市園部町天引川北43　原田久さん（☎0771・65・0152）

（井手）

である儀我誠也少佐も同乗していて間一髪助かるという歴史秘話ですね。先生ご自身も大学を1943年に卒業されて八幡製鉄系列の国策会社・北支那製鉄株式会社の新人研修で中国に渡り、敗戦間際に帰国したということもあり、中国人民との縁浅からぬ関係で、思い入れたっぷりです。

――その頃、日中友好協会には、後の府会議員にもなった福山敏夫さんをはじめ、中国引揚者や敗戦後に人民解放軍兵士になったひとや満蒙開拓団員だったひともいましたから、〝日中不再戦〟の言葉にリアリティがありましたね。

坂口　ところが歴史は皮肉なもので、アメリカのベトナム侵略戦争がらみで中国が「世界の農村が都市を包囲する」という一見勇ましいが、アメリカ帝国主義のベトナム侵略に対する「国際統一戦線」結成の呼びかけに背を向ける態度をとります。

――中井先生の亡くなられた翌年、追悼集編集中の1966年5月26日に中国の毛沢東が「プロレタリア文化大革命」を発動して、中国の大国主義に盲従する文革派が、日中友好運動をはじめ民主運動にも混乱を持ち込みました。いわば、この追悼集は政治の端境期に世に送りだされました。

坂口　せんだって、僕は地方新聞に安倍首相の靖国参拝を批判する投書をしました。日本国民310万人、アジアの人々2000万人のいのちを奪ったあのアジア・太平洋戦争の戦争指導者たちを合祀した宗教施設に参拝することと不戦を誓う平和憲法の憲法遵守義務とは、背馳します。

私の一期一会⑨　手塚晃さんに聞く
訂正及び追記について

編集部の手違いで校正が処理されていませんでした。お詫びするとともに次の通り訂正いたします。

4頁―1段目12行
歴史学研究会創立20周年大会の後に（1952・5）を追記
同4段目10行
中塚明→樋口暘
14行
西洋史専攻の異色の二人のアキラで→西洋史専攻で京大人形劇団の異色のお二人ですが、
5頁―1段目1行
小学校教員→中学校教員
同10行
小学生向け→小中学生向け
4段目25行
伏見区桃山丹波橋→伏見区桃山町の丹波橋付近
6頁―1段目2行
大島映画常連の→大島さんや新藤兼人さんの映画に出ていた
同1段目6行
西山外三先生行きつけの→西洋史の先生たちの行きつけの
同9行
京都人形座→京都人間座

『谷善と呼ばれた人』を書きながら考えさせられたこと

松尾隆司（谷口善太郎を語る会）

ふとしたことから、『谷善と呼ばれた人』（新日本出版）という本の、「第2章　労働運動家としての谷善」を書きました。そして書きながら、さまざまなことについて考えさせられました。

その中の大きなことの一つが、巨大地震と、それが引き金になって暴き出される、その時代の社会の根本問題についてです。

谷善が労働運動に目覚め活躍した時代1920年代。第一次大戦後のこの時期、日本の資本主義は急速な発展を始めます。その中で多くの若者が農村から都会へ出て来ます。都市では労働問題が発生し、労働組合や社会主義運動が激しく動き出します。この時代は、谷善の20代・青春時代でもありました。彼はこの激動の時代、激しく学び激しく闘い、仲間との連帯の中で生き抜くのです。

そんな1920年代のとば口、1923年9月1日、巨大地震が日本社会を襲ったのです。関東大震災です。そしてその大混乱の中で、朝鮮人や中国人、川合義虎をはじめとする社会主義者の大虐殺が引き起こされるのです。

地震そのものは地球の運動ですが、それと関わって引き起こされた大虐殺は、当時の日本社会の持つ鋭い矛盾を利用して、国家権力によってしかけられた一撃、暴力的な爆発でした。これについては、中島敦が「巡査の居る風景―一九二三年の一つのスケッチ」（1929・6）、徳永直が「頂点に立つ」（1931・2）、本庄陸男が「白い壁」（1934・5）などで、朝鮮人、労働者、子どもの視点からさまざまに描いています。

そして時代は、1925年の「治安維持法」、1928年3月15日の大弾圧へと激しく展開していきます。

1920年代の谷善のことを調べ、考え、書く私の頭の中には、2011年3月11日に起こった「東日本大震災と福島第一原子力発電所の崩壊」、それによって引き起こされている日本社会の危機の深まっていく姿が、重ならずにはいませんでした。

1923年の関東大震災と2011年の東日本大震災、この二つの大震災が日本社会や世界に引き起こしたことは、何が同じで何が異なるのか。ここには世紀を超えた大問題があるように思いました。その意味でも、谷善は今も生きているのです。私にとっての谷善の発見の一つです。

今、この二つの大震災から、私たちは、21世紀の日本と世界のあり方を根本的に考え直すところに立っているように思います、21世紀に生きる私たちは、かつてない新しい大きな課題に直面しているのです。「谷善と呼ばれた人」を書く中で考えさせられた、そして考え続けさせられている大きなことの一つです。

谷善の生家跡でも碑前祭

6月7日、私は谷口善太郎の生家跡（石川県能見市辰口町和気）での「第38回谷口善太郎顕彰碑前祭」に党府委員会を代表して参加させていただきました。「谷善」の本を編集・執筆された藤本貞子さん、伊藤哲英先生もご一緒でした。

没後40年とあって25人もの方が参加され、総会も盛大でした。

（西山とき子）

写真前列真ん中の３人が京都からの参加者

谷善顕彰碑（文学碑）

私の文化・労働運動史 断片

堀　昭二（元・京都文連事務局長）

西陣職安で映画サークルつくる

昭和26年（１９５１）８月頃、勤めていた西陣公共職業安定所で、３名の会員による映画サークルをつくり、機関紙「サロン・ド・ペソ」を28年１月に創刊した。タブロイド４頁のガリ版刷り、頒価10円だった。

昭和28年、全職安労働組合京都支部西陣分会長に。翌年には京都支部長に選出され、職員賃金（給与）の不均衡是正闘争に取り組み、人事院大阪事務局から池田事務局長が来訪、組合員９名の是正を勝ち取った。

このような闘争は、当時、戦闘的労働運動でないとして、どちらかといえば見下げられていた。しかし、この闘いが、小生の支部長の地位を不動のものとした。

昭和30年、当時の京都府は財政危機にあった。このため国費職員に国からの給与とは別に支出していた、年末一時金（手拭代と称していた）を廃止する方針を打ち出した。このため、府職労職安支部（全職安と二重加盟）として、激しい一時金獲得闘争を行った。闘争が徹夜交渉になるため、貸し布団を本庁舎廊下に持ち込み、事実上，翌朝の日雇い紹介業務をボイコットする体制に入った。

このため府警では事実上のストライキとして、弾圧要員を京都御所内に待機させた。結果は早朝になって一時金が出ることになり、この闘争は解決した。しかし、そこまでやるか‼という闘争であったことは間違いなかった。

業務研究集会に蜷川知事が……

昭和30年（１９５５）には業務研究集会を組織した。府本庁内で行った研究集会に、蜷川知事が出席（特に要請していないにもかかわらず）し、激励されるという、前代未聞の活動となった。それは大きな反響を呼んだ。小生も開会あいさつで、「人間の一生は、学習に支えられる」などと偉そうなことを言ったことを覚えている。

こうした活動は、当時、極めて「保守的・体制的」と見られたが、よく考えて見れば、極めて進歩的な闘争であったことがその後証明された。日教組の「教育研究集会」が始まったのはこの翌年である。

昭和32年（１９５７）～35年（１９６０）、京都地区の国家公務員労働組合で組織される、京都国家公務員共闘会議の議長を務める。前議長は全農林の田川熊夫氏（後の宇治市長）であった。副議長には京大職組の浅井先生（理学部）になっていただいた。

昭和34年秋、府職労（社会保険支部）への刑事弾圧があり、自治労府本部委員長の神谷信之助氏、大江洸執行委員、伊藤晃保険支部長ら12名もの逮捕者（11人起訴）を出すこととなった。

地裁での公判では、弁護団から特別弁護人に選任された。そのため弁論の文書をまとめたが、時間にして30分余に及ぶものとなった。主任の東中光雄弁護士にこのまま弁論してよいかと尋ねたら、「やれやれ」と了解を得たので、発言はしたものの、裁判長から「よく判りました。もうその辺でよろしいのでは」と言われ、引き下がった。後で他の特別弁護人や弁護士の方々の発言記録をみると、小生だけが長く、まさに冷や汗ものであった．裁判は14年間続き、全員無罪となった。

昭和34年（１９５９）から京都映画サークル協議会会長に。翌35年には京都労働組合映画協議会会長の全電通労働組合委員長で当時は京都市会議員（社会党所属）だった小村最二氏と会談し、両組織が統合することに合意した。

新しく京都勤労者映画協議会として発足し、新会長には全電通から出すこととなり、小生は事務局長を務めることとなった。これは当時崩壊寸前であった、旧労映を旧映サが事実上吸収合併したもので、名を与え、実を取ったとされた。

京大生のスト応援と「赤トンボ」

１９６０年の安保闘争時には、京都国家公務員組合共闘会議の議長であった。

６月15日の全国一斉の闘争時には、早朝８時30分から、30分間のストライキを予定し、近畿農政局前（当時は左京区丸太町新道）に結集し、決起集会を敢行した。この場で一定の組合員を予定時刻に集めるため、貸切バス２台をチャーターし、各職場を廻り、全農林前に約３００人を結集することが出来た。

60年安保で国家公務員スト決行

府庁を埋めたガガーリン歓迎

京大生の応援ピケットラインもあり、丸太町通りは新道で完全に封鎖された。京大生の指導で「赤トンボの歌」を歌い参加者は一体化したものであった。バスの台上から演説したが、興奮していたのか、今は何をしゃべったのかも覚えてない。集会は約25分で終わり、それぞれの職場に復帰した。お咎めなしであった。

昭和38年（1963）、当時はケネディ・ライシャワー路線と言われた体制の中で、勤労者文化団体の体制を固めるため、協議会を結成することになり、労音・労演・労映の3団体と、うたごえ・劇団京芸・人形劇団京芸が協議し、規約をつくるとともに、会長職を安永武人・同志社大学教授に引き受けてもらった。依頼に行ったのは労音の北事務局長と小生であった。

引き続き、規約をつくることとなり、小生が素案をつくり、名称をちょっとクラシックな「文化団体連盟」とした。そして労音・労演・労映の順に事務局長を務めた。

アジア・アフリカ映画祭に参加

1962年、宇宙飛行士ガガーリンの京都来訪時には、歓迎事務局へ出向した。暫時ではあったが、府が認めた形になった。灘井五郎事務局長のもとに教員組合の市木氏と事務局を構成した。場所は喫茶フランソワ店主宅であった。

1966年知事選挙公示前日（4月2日）府立勤労会館で開かれた「文連の夕べ」。演壇は私、左は蜷川知事。

ガガーリンの京都滞在時間が短く、円山音楽堂での大規模歓迎集会が出来なくなったため小生の提案で、京都府庁に知事を訪問し、知事室前のバルコニーに、蜷川知事・ガガーリンが並び、本庁前広場を歓迎者で埋める歓迎集会を開いた。これは予想以上、予想外にうけ、好評で、ちょっとした絵になったことは印象深い。地評の百瀬氏が、色紙にガガーリンのサインをもらってくれた。

1964年4月19日～5月6日まで、ジャカルタで開かれた第3回アジア・アフリカ映画祭に観客代表として出席させてもらった。

日本からは、山本薩夫監督の映画「荷車の歌」が出品され、主演の望月優子氏ともご一緒させてもらった。出品の「荷車の歌」はグランプリを得た。小生も海外の代表たちとの交流で多くのものを得た。とりわけ南ベトナム解放戦線から参加した代表の話には心を打たれた。

小生はその頃まだ珍しかった8ミリカメラで不十分ながら一部始終を撮った。しかしながら、1年後に反スカルノ革命が起き、映像のインドネシアの人々の多くが粛正されたことは、ほぼ間違いなく思われたので、そのままにしておいたが、2011年にDVDにした。歴史的記録としては有用であったと思っている。

文連事務局長としての活動

文連事務局長時代、1966年知事選告示の前日に開いた、蜷川知事支援のための決起集会（勤労会館）では、会場満席の大盛会となった。民主陣営の方々から「よう集めたものだ」と感心された。

さらに小生の文連事務局長時代の大きな集会といえば、ベトナム人民支援のための「文化の夕べ」であった。当時、ベトナム問題で国際的にも活躍されていた評論家・松岡洋子氏を迎えてのこの集会には蜷川知事も出席され、松岡氏の講演を最後まで、熱心に舞台袖で聞いておられたことは忘れられない。大成功であった。

そして終了後、私は松岡氏を夕食にお誘いしたときに衝撃的な話を聞いてしまった。「実は私は中国に娘を人質にとられています。娘はある疾患で中国の病院にいる」というものであった。「何が人質なのか?」今もってよく理解できないが、小生がインドネシアで、南ベトナム解放戦線代表から聞いた「今は援助を受けて感謝しているが、いずれ私どもベトナム人は、残念だが中国と戦わねばならない」という言葉の間の暗示的なものであったと思える。

外山雄三氏の解任めぐって

最後に1968年に起きた「外山問題」に触れておかねばならない。当時の富井清民主市政時に、京都市交響楽団常任指揮者であった外山雄三氏が解任されたことである。理由は外山氏が河田賢治参院議員候補のポスターなどに推薦の名前を出したことで、市議会で問題にされ、解任に至ったというものであった。

伏線があった。それは、外山氏が総理府から依頼され作曲した「明治百年の記念曲」をめぐっての問題であった。

小生などは分からなかったが、専門家達は曲の伏線に「インターナショナル」が入っているという指摘があり、事実この曲は明治百年の式典から除外されるという事件であった。

当時小生も、解雇の事態をめぐって「打ち消しのために」走り廻ったことを記憶している。そのためか外山氏はその後長く、NHKの出演がなかった。

（堀昭三さんが執筆中の「自分史」から一部を掲載させていただきました＝編集部）

研究ノート

京都勤労婦人連盟 ③

井上とし（女性史研究者）

6　統一・共同の運動　その1

前回212号の「5　活動」と同時進行して行われた運動の主なものを2回に分けて列挙していく。

①京都女子民主連盟（戦線の意味、連盟と略す）

戦後京都でも新しい政治変革に向け、民衆の側の強力な政治勢力としての統一戦線が志向された。政治活動が自由になった社会・共産党などを中心に模索、編成が繰り返される。それが「民主戦線」である。（人民戦線京都協議会―京都民主戦線―救国民主連盟京都支部の総称　1946年1月～47年6月まで）（松尾尊兌『戦後日本への出発』参照）

この政治動向において参政権を得た婦人の参加は当然であろう。戦後、新日本婦人同盟京都支部、女性研究会（府立女専同窓会系）など婦人団体も多く結成され、ともに交流があったのは46年3月の婦人解放大会の発言者をみても分かる。この大会で「女子民主戦線協議会結成」が緊急動議として出された（横地報告には「党フラク会議の決定に基いて動議を提出」とある）のをきっかけとして動きだした。46年5月、勤婦が準備会を提唱したが、他団体は政治的スタンスの相違に拘泥したのか不参加。実質は「共産党のほか、勤婦＝各労組婦人部（25団体）」といわれ、「常任幹事は共産党、勤婦、中央電話局、第二日赤、日本電池」であった。（松尾前掲書）

勤婦の「会報　第一輯」（46・3）に小池美樹という変名で横地が書いたと思われる「進路」という長文が載っている。まずはこの国の機構を明治近代化以後の資本の収奪、軍国化を通して説明し、婦人はあらゆる労働に参入し窮乏と忍従の生活を強いられてきたが「参政権を得てもそれだけでは役にたたない。婦人解放、平和日本の実現は、なによりも働くものが結集し、団結する組織を作らねばならない。それが民主戦線である。この方向に進んでこそ実現可能である」と主張する。横地報告には女子民主連盟（戦線という用語は使っていない）についての記載が多い。松尾前掲書では、6月京大病院看護婦争議を応援し「その後の状況は不明である」とあるのに対し、横地報告に9月、10月の記載があったので以下簡略に記しておきたい。

・46年9月初め、共産党が幹事として緊急の召集をかけている。この頃国鉄では大量解雇の嵐が吹き荒れていた。切迫した国鉄スト（10月闘争）を前に、国鉄婦人を囲んで座談会を開き馘首反対へ各組合婦人部を動かすこと、日国工業婦人部からは闘争の結果一応馘首取消しになった事実を聞くこと、各自分担して組合婦人部を訪問、招聘することを決定し、行動するとした。

・9月例会（13日）　島津三条工場三階

出席者―勤婦　千代田生命　鐘紡京都工場　京都・西陣・七条郵便局　市役所　島津三条・四条・紫野、伏見　寿・十条　関西配電、立正電気　国鉄　井上電機　第二日赤　青共幹事―共産党

討議内容

一、女子民主連盟経過報告　渡辺つるえ（勤婦）

二、国鉄問題について　小松勝子（共産党）

三、KKR婦人部結成経過報告　橘高（島津三条）

四、国鉄の事情報告　木村（七条駅出札）

京都駅の女子実務者は104人から71人に。終戦後配置転換、身分引下げによる辞職強要の事実がある。5、6日宇治山田大会を前に4日急遽青年部（婦人部を含む）を結成した。馘首反対ゼネストには関心薄い。

この国鉄の状況は労働婦人全体の問題であるとして、京都郵便局、島津三条工場では支持、応援の決議がなされている。島津・KKR婦人部長から、連盟としても応援決議文手交（手渡し）の動議がだされた。これに対し、渡辺つるえは親組合に許可を取るべき、決議文作成強要は非民主的、と反対した。鐘紡、千代田生命は賛成。さらに再び関電、京都郵便局から動議があり、決をとったところ大多数の賛成で可決。起草委員によって作成し発表。9月14日7名の代表が国鉄労組を激励、手交にいった。横地資料にその現物一枚が残っている。

「国鉄の現に行いつつある馘首反対闘争は私達働く婦人全体の問題であります
何故なら、もし国鉄組合がこれに敗けるならば同じ運命が私達女子に迫って来るのは当然だからです
私達、国鉄組合総聯合の皆さんが一致団結して政府の無謀なる馘首に対して徹底的に闘い勝利されんことを祈り、如何なる闘争形態たりとも之を絶対支持し、一刻も早

くゼネスト可能の強力なる態勢を全国的に結成されることを希んで止みません
国鉄婦人部の皆さん、働く女性全体のためにもしっかりがん張って下さい
一九四六年九月十三日
女子民主連盟」

五、渡辺は、勤婦の連盟脱退を声明。
それを近藤とし子が説得し、組合婦人部協議会へ発展的解消を目指すことで脱退声明は見送られ、共産党は傍観者の立場に退く。
横地報告によれば、連盟は4月の婦人解放大会の動議によって女子の統一民主戦線として発足したものであり、「その後数回会合を重ねるうちに、自由党、社会党、その他文化団体は不参加となり、組合婦人部と勤労婦人連盟と共産党が残った。勤婦のキャップとしての渡辺はこれを全く自己の勢力と考える傾向が見えていたが―事実戦時中産報の婦人キャップであったらしいので、その影響下のものが多く参加したのは事実である―実際上の仕事は党員たることを知悉している。近藤、児島の力によることも知って、党の活動はかなり自由であった」。
そこへ共産党婦人部長小松から連盟を「工代会議（労働者の工場代表者会議）の方向にもってゆくのがより正しいと指示があり」、方針を変更して9月例会には臨んでいたが、国鉄問題が切迫していたため、事前の委員会を開かずに開催したので「渡辺から共産党は非民主的と抗議、もめた」のである。横地はこの小松の「方針に進行していけば一応の進展は望めるが、おそらく産別の枠に近いものになると思われる」と記し、異議があったようである。
・10月例会（23日）幹事―島津三条
招請状50通発送
出席者　宇治川発電所―2名　関西配電京都支店、上京支所、伏見支所―5、6名／島津三条・高垣、北条、橘高／市電婦人部長羽田／市電壬生・高岡、中泉、坪田／京都機械―2名／島津紫野／国鉄青年部・広田部長、西村他1名／府医大交換台―2名／行動隊―2名
傍聴　勤婦・近藤／青共・井ノ口／婦人民主新聞・林／共産党・児島、絲屋、横地
司会―高垣　議長―橘高　副議長―青木（関電）　書記―島津三条
討議内容（主意）
一、国鉄応援の報告（旧幹事として横地）
一、国鉄側より報告（広田）
京都は大阪地聯に属し、ゼネストの指令は上部でとどまって下部組織にまで届かない。しかし14日の妥協案に満足はしていない。必ず馘首がくる。組合では下組織の総意を反映する代議員を改選し備えている。当面の問題は配置転換であるが、組合としては未だ対策をたてていない。考査、テキスト表がつくられ、これが配置転換への準備工作であることは明白で、強力な態勢をとるため青年部協議会がある。

河原町蛸薬師通にできたヤミ市
（1946年ごろ「京都府百年のあゆみ」より）

一、島津　労働協約締結の闘争報告（婦人部長高垣）
臨時青年婦人部大会を開き決議文作成、交渉の場で朗読して進行させ、ほぼ原案通り承認、調印。スト準備も進めて、行動隊には婦人も参加し、毎朝一定場所に集結、警備の位置につき、交渉を有利にした。
一、市電　労働協約締結の闘争報告（副部長羽田）
5日交渉決裂。日交関西地協の20日ストの準備を整えた。大阪と京都で青年行動隊を編成、相互交流し街頭宣伝した。総数200人。青年婦人はその予備隊となる。市長に決議文を提出し交渉を有利に促進、18日締結。婦人たちの活躍が喜ばれ、自信を得た。
一、京都機械
重労働3日軽労働2日の有給休暇要求、労働協約締結の要求を準備中。
一、電産（福本・青木）
最低賃金制の確立、退職金の増額、官僚統制の撤廃、配電一社化の要求について説明。交渉決裂、5分間スト、専用線ストをし、青年行動隊を編成。相互激励、街頭宣伝をしていると報告。
これに対し質疑、討論。電産要求を通すことは全勤労者の生活水準を高める大きい端緒となり、全市民、婦人の支持によって料金低下も可能

となることを納得する。争議支持方法として電産行動隊と経営・家庭婦人との座談会を催し、新聞公表を決定した。

一、府立医大従組（上田）

スト宣言書を配布し6ヶ月にわたる争議について述べた。職員と組合が二分。大多数の看護婦は劣悪な状況で、婦長制の封建的圧迫により要求をふみにじられている。最近は大学側の圧迫にもかかわらず、青年行動隊（市電、松竹、電産、島津）と共同行動をとり果敢な争議をしているが、さらに婦人からの支援を求めたい。

この後、電産、府立医大への激励文起草などの応援について出席委員が協議。28日七条郵便局で集会を開くことを決定。幹事改選・運営については経緯を児島より報告。趣意書（働く婦人の闘争を通しての戦線統一を）を起草、プリントし、これらは委員会において実行することを決めた。

先の9月例会で「組合婦人部協議会へ発展的解消」と話し合われているが、横地資料中に翌47年「労働組合婦人部協議会（女子民主連盟改称）2月例会議事」と書かれたメモがあった。内容は、「1、前回報告　島津三条、高垣。2、労働組合婦人部協議会改称結成の提案　関配、福本。趣意書、加盟、委員会の選出、次回幹事決定。3、2・1ストを中心としての各労組婦人部の活動報告並びに批判　国鉄、簡保、七条郵便、市職、府職、教員、市電、井上電気。4、地方選挙をひかえ労組婦人部の統一的対策。5、同一労働同一賃金、有給休暇の実施状況並びに対策」。

「同準備会3月例会」というメモには、「場所―市電教習所　幹事―電産」「議題―1、前回報告　2、趣意書の討議　3、女子労働者への待遇に関する対策（同一労働同一賃金実施状況、生理休暇実施状況、女子労働しめだしの対策）　4、選挙対策（民主戦線の統一、働く婦人大会、立会演説会。職場の啓蒙　婦人部会における徹底、次回報告のこと）。5、委員選出、次回幹事決定」。

これだけであるが、すでに女子民主連盟は改編、変更されたと考えられる。

右の簡略な経過からでも、ここに結集した労組婦人部の女性たちがどのようにして闘いを共有しあい、団結を形成しようとしていたかを推測できるであろう。

しかし勤婦では、当初の目標を実行するべき肝心の勤労婦人の多くが、実質的には移行しようとしているようである。これは一連の労働大学の盛況の側面で進行していた。

渡辺のイメージした「勤労婦人の生活文化運動」という緩やかな啓蒙活動は現実の激しい労働、政治情勢に即した有効な運動とはなり得えなくなったのか。またはこの間の勤労婦人の成長の結果なのか。統一志向を宿しつつも、生活文化運動的な性格は婦人民主クラブへ傾斜し、労働運動を闘っている勤労婦人たちは次の京都婦人協議会へと分岐していったのではないかと推考するのだが。

②京都婦人協議会（京婦協と略す）

先に女子民主連盟46年10月例会で「組合婦人部協議会へ発展的解消」が合意され、翌47年2月には「労働組合婦人部協議会《女子民主連盟改称》」とあり、さらに49年3月第2回国際婦人デーで「動議―婦人の統一的組織をつくること」が提出されている。この流れに沿って女子民主連盟に代わるものとして組織化されたと考えられる。幅広く婦人団体も含めているが、あくまでも労働婦人が中心であろう。終戦以来の婦人運動の経験が集約された組織とはいえ、当時の社会情勢からみて活動期間は短かったと思われる。

1949年8月17日結成準備会以来討議を続け、市職員の定数条例による名目で行われた馘首・レッドパージの撤回を市長に要求、街娼取締りでのミスキャッチ（奥野事件―占領軍が女子学生を誤認拉致し平安病院へ収容）について市警への抗議、平安病院（性病専門病院）の実情調査などの独自活動を重ねて結成に至っている。

［京都婦人協議会結成大会］

1949年11月28日　労働会館

500人

参加団体―総同盟、産別、全官公、全京金、全農林、全医労、自労、婦民、朝鮮女性同盟、上京生活を守る会、共産党婦人部など。（勤婦加盟は不明）

会長　福森かずえ／副会長　西川芳子

綱領　主意―生活擁護、子どもに正しい教育を、戦争反対、民主日本建設。

綱領のもとに全京都婦人の解放のため闘うと確認しあった。

翌50年、既述のように勤婦、京婦協共同で婦人戦線統一懇談会―全京都婦人民主団体代表者会議と結集の輪を広げ、民統に共同闘争を申入れて参加した。歴史的な革新統一、「民主戦線」復活の運動のおける女性活動の要としての存在を示したといえよう。

選挙では統一候補の高山義三市長（52年に変節）、続く蜷川虎三知事が実現し勝利するが、折しもレッドパージが進行しており、この逆流への抵抗のためにも、女性解放をさらに進めるためにも、民主首長の当選には切実な願いと熱烈な期待が凝縮さ

【連載】

この1枚

1958年1月の京都市長選挙

社共で田畑磐門氏を担ぐ

高山義三京都市長は民主戦線統一会議に推され1950年に当選したあと、社会党の分裂などに乗じ保守・反動色を強めた。このため54年市長選では西園寺公一氏を、さらに58年には田畑磐門氏（元助役で50年選挙では高山の対立候補）を社共統一候補とした。

社会党はすでに前年7月に田畑氏を決定していて、これに共産党が乗ったのだが10万票差で敗れた。この写真は個人演説会のものだが、演壇は同志社大学の田畑忍教授。他の弁士は共産党の袴田里見氏以外はすべて社会党国会議員。

共産党府委員会はこの市長選について「共社両党の『共同覚書』を基礎に民団連（全京都民主団体連絡会議）に多くの労組、民主団体を結集したが……覚書の協定事項や、わが党の『市政綱領』にもとづく大衆闘争の盛り上げの弱さから、社会党のセクトを打破る力に不足した」（第11回府党会議）と総括している。

引き続く4月の知事選には共産党が河田賢治氏を立て蜷川批判選挙をたたかったがその後の革新自治体のあり方、与党の教訓にもなった。

（ゆ）

＊「連載」を復活しました。（編集部）

れていたであろう。聞き取りをした多くの女性活動者が、夜遅くまでメガホンで連呼し支持を訴えて回ったと思い出を語っていた。

この時点になると、渡辺つるえの周辺には何人残っていたのであろうかと思う。

児島とみは87年当時「解散声明は出していないから、未だ存続しているのではないか」といった。確認はとれていないが、以後は渡辺のサークルとして継続していたと推考している。

（つづく）

催し案内

戦後70年を映画で振り返る(3)亀井文夫監督「生きていてよかった」 7月26日（土）10時30分と13時30分、河二ホール（二条河原町西、河二ガレージビル8階）協力金1000円。1955年に開かれた第一回原水禁世界大会のあと被爆者救援運動の一環として翌年完成した記録映画。被爆者の実情をリアルに伝え、大きな反響をよんだ。平和文化賞、ブルーリボン賞受賞（上映時間48分）、短編記録映画を同時上映。主催・問い合わせ＝京都映画センター電話256・1707.

第34回平和のための京都の戦争展 8月5日（火）～10日（日）午前9時30分―午後4時30分、立命館大学国際平和ミュージアム中野記念ホール。連日午前・午後にイベントあり。無料。

京都まつり 9月23日（火・祝）午前10時～午後3時、宝ケ池公園。ザ・ニュースペーパーのコント、山下よしき共産党書記局長の記念講演など。参加協力券500円（共産党主催）

会員の皆さんからのお便り

総会への出欠はがきから

総会への出欠返信に書かれたメッセージを紹介します。（順不同）

総会出席するつもりでいましたが、他の用が入りました。残念ですが、会の成功を心から願っています。みなさまによろしくお伝えください。

（八幡市・小畑哲雄）

◇

大切な時期の大切な総会と思いますが、今のところ出席できる状況ではありませんので失礼します。

（左京区・伊藤晃）

◇

原田先生、私は１９８９年から２００７年まで、18年間、吉江久彌先生や長友千代治先生に云われて司書課程の非常勤講師に佛大へ行っていた広庭です。お忘れになったかも知れません。先生のことは修学院地区の婦人の友人から何度も聞いていました。御身体を大切にされて御指導下さいますようお願い申し上げます。私は昨年80歳となりました頃から体の調子が芳しくなく、当日も欠席させていただきます。申し訳ありません。

（左京区・廣庭基介）

◇

反動的暴徒に対峙する上でも、未来をきりひらく上でも、闘いの歴史に学ぶことは極めて重要だと思います。

（左京区・光永敦彦）

◇

戦後の京都の民主運動を検索し、学習する機会が増えてきました。当日他のことがあり参加できず残念です。

（宇治田原町・大平勲）

◇

民主運動史がいまほど大切な意義を持っている時はありません。安倍政権の暴走につぐ暴走のもと、人民の絆をつよめ拡げ生きる励ましを創る貴重な取り組みです。一層のご発展を期待しています。

（舞鶴市・佐渡一郎）

◇

戦後の掘り起しが重要だと考え、南山城について聞き取りを始めました。住谷悦治と上毛孤児院（前橋）住谷の孤児への関心から、京都の戦争孤児研究にも力を入れています。当日は別の用件で欠席します。

（宇治田原町・本庄豊）

◇

遠く離れて例会も参加できませんが、盛会をお祈り申し上げます。

（信州飯田・安岡健一）

◇

いつも貴重な内容のこもった機関誌ありがとうございます。戦後の日本人の歩んできた歴史も憲法もなきものとする安倍政権の「戦争できる国づくり」に対して、戦前の不屈の闘いの歴史と戦後の歩みも知らせたいと思っています。岡部伊都子忌も今年七回忌となりましたが、日本軍慰安婦問題もあり、岡部さんの「反戦」朝鮮との関係を集めた２００４年刊『朝鮮母像』を改めて広めています。「戦争をしない」と誓いをたてた日本人ひとりひとりの思いが迫ってくるからです。今後ともよろしくお願いします。

（左京区・西山とき子）

◇

総会のご案内ありがとうございました。残念ながら欠席いたします。

戦前の京都の社会運動に関わった桟敷よし子（ジョセフィン、１９０２～１９９２）について一報します。今秋10月、よし子の出身地・北海道札幌への〝ジョゼの青春〟スタディ・ツアーが高槻在住の正路怜子さんによって計画されています。小樽・余市を訪ねる旅、楽しみにしているところです。

（北海道美瑛町・岸伸子）

◇

総会のご案内を頂き有難うございました。ご活躍ご苦労様でございます。今年、４月19日には、倉岡愛穂墓前祭に丹後へいって参りました。京都治安維持法国賠同盟の一員として。「レーダー基地軍備強めて列島を植民地化するか憲法犯し」…の思いがふつふつとわいて来ました。

（下京区・三双順子）

◇

誠に申し訳ありません。おゆるし下さいませ。二つの特定疾患で身体障害者、第一級。その上、「足の大動脈に動脈硬化のうたがい」で歩行困難。どこへも出かけられなくなりました。御参加の皆様に、よろしくお伝え下さいませ。今から81年も昔。私、小学校の一年生。「サイタ　サイタ　サクラが　サイタ」。次をあけると、「ススメ　ススメ　ヘイタイ　ススメ」。「日本国民は、天皇のおんために、桜の花のように、パッと咲いて、パッと散る。死にぎわ、グズグズしてはならない‼」と、叩きこまれて、大きくなりました。だからこそ私は、安倍政権のねらう「愛国心を持ち、戦争する国民を育成する」〝教育改革〟に対し、大変な危機を感じます。「京都の民主運動史を語る会」の団結と運動の拡大は、何としても重要です。

（北区・藤原ひろ子）

◇

「燎原」いつもなつかしく読ませて頂いております。小生京都は敗戦直後で、49年の躍進選挙で警官ともめ、口論になり、七条から京大までつきまとわれ、構内に入るまで〝こい〟〝いやだ〟をくり返した記憶があります。当時の警官も「民主的」？だったのでしょうか。

（箕面市・藤木博顕）

◇

記念講演〝戦後から戦前へ〟のお話を是非うかがいたいと思っていたのですが、子どもを守る会の取り組みと重なって出席できません。みなさまによろしくお伝え下さい。

（左京区・関谷美奈子）

◇

地域の皆さんとの学習会の日になっており、出席できません・岩井先生、原田さんによろしくお伝え下さい。ご盛会を祈念します。（向日市・望田幸男）

◇

「燎原」毎号待ち遠しく読ませてもらっています。特に民主府政で闘ってきた経験など自分で歩んできた道を思い起こし、改めて元気づけられています。3年前より本格的な老老介護の生活に入ってから、私の体調の老化が急速に進み、近頃は自分の周りの整理もできず、現在は、元気でやっておられる皆さんに何とかぶら下がって過ごしている状況です。まともなメッセージも書けず申し訳なく思っています。せめて総会だけでも出席できればと思っています。

（左京区・山下茂）

◇

戦後、今ほど危険な方向に雪崩て行く時はなかった。人々の正しい知恵をもってこれを食い止める運動を続けねばなりません。（左京区・宮城泰年）

◇

京都で民主運動に関わった人は、深浅の差はあれ、戦後70年のあいだに幾百万を数えるでしょうね。紆余曲折があり、高揚と低迷があり弾圧と妨害に抗し内部矛盾と格闘し歓びと悲しさ辛さと切なさをかみしめ暗愚と汚辱にまみれた冷酷の政治に人間の尊厳、良心、愛と希望の力を傾けて「美しい人と人との力」を創り出したい「絶望の山から希望の石を切り出し」続けよう。

q（宇治市・須田稔）

◇

歴史を語り、綴る意義はますます重要と思います。御盛会を念じ上げます。

（左京区・鰺坂真）

◇

岡山在住の京大出身者今井禎一君（工学部土木科一年後輩）を同伴します。

（岡山市・松岡健一）

随想

替歌　庶民の力と知恵

橋本安彦（舞鶴市）

最近の安倍晋三首相の反動的暴走を見ていると、我々庶民・国民の力をナメきっているとしか思えない。

私は国民学校一年生の八月に終戦を迎えた。

学校に入るまでは近所のガキ大将共にしっかり遊んでもらった。

その中では十五年続いていたアジア太平洋戦争のもとでの庶民の気分や感情が子供達の遊びの世界へも色濃く反映されていた。

私達子供連中は、戦争ゴッコをしたり、ワイワイと大声で歌をうたったりしていたが、その中で今も脳裡に残っている次のような歌がある。（あまり正確ではないが）

〽きのう産まれた豚の仔が
蜂に刺されて名誉の戦死
豚の遺骨はいつ帰る
四月八日の午前九時
豚の母ちゃん悲しかろ

「名誉の戦死」をみごとに皮肉ったこの歌詞は。当時の厭戦気分をよくあらわしている。何故「四月八日」なのかよく分からない。四月八日はお釈迦さまの誕生日である。子供の頃は「花まつり」の日でお寺では甘茶がふるまわれていたので子供には印象深い日であった。そんなところからと歌うときの語呂合わせが良いのでそうなったにちがいない。

いまひとつは

〽きのう産まれたタコの子が
弾丸（タマ）に当たって名誉の戦死
タコの遺骨はいつ帰る
骨がないから帰れない
タコの母ちゃん悲しかろ

これはさきの「豚の子版」のアレンジ版と思われる。「蜂に刺されて戦死」というのは子供心にも不謹慎と思ったのか、「遺骨」というのがイヤで避けたのか、よくはわからないが「豚の場合は骨があるがタコだったらどうなるの」と思った憶えがかすかにある。

しかし、海軍の兵隊さんは勿論、陸軍の兵隊さんでも、帰ってきた骨箱には石ころだけが入っていたりしたことを思えば、この遺骨も帰らないというのも強烈な皮肉となっている。

おまけにこれを歌うメロディは当時戦争中に軟弱だと言って禁止されていた「湖畔の宿」の曲の替歌になっていて、誰がはじめたものか知らないがまさに庶民の知恵恐るべしである。

庶民・国民をナメたら遠くない時期に、安倍首相は必ずや首相の座からひきずりおろされるであろう。彼の祖父の岸信介氏がそうであったように国民の怨嗟の声の渦で取り囲まれるよう力をつくしたい。

（寄稿。平和のための舞鶴戦争展実行委事務局長）

民主運動史を語る会９月例会

と　き　９月21日（日）午後２時～４時半

ところ　東山いきいき市民活動センター会議室

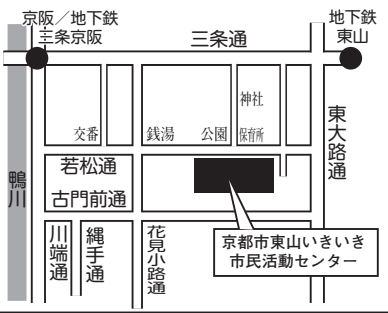
花見小路通古門前上がる東入る南側

テーマ　京都の消費者運動の歩み

語る人　原　強さん（コンシュマーズ京都理事長）

1949年生まれ。京都府生活協同組合連合会専務理事を経て、1972年結成された京都消費者団体連絡協議会代表幹事、会長に。現在、コンシューマーズ京都理事長。レイチェル・カーソン日本協会関西フォーラム代表。

例会は隔月に開きます。どなたでも参加できます。会員は無料。会員外の方は資料代３００円。



会員消息

面白かった龍大時代

殿平 善彦（北海道深川市）

「燎原」212号拝受。我ながら、面白い学生時代だったと思い出し笑いしています。この類のエピソードはもっとあるようにも思いますが、忘れてしまったことの方が多いのでしょうが。

橋本製作所の連中はその後どうしているのか。先年、河合さんに会う機会がありました。時々再会の場を作っていると聞いた気もします。解決したら、金を持って、一緒に日本中を旅行しようと約束した記憶がありますが果たせずに北海道に帰ってしまいました。

昨年だったか、西口克己さんの奥さんに会いました。昔話をして懐かしくあっという間に時間が過ぎました。ご縁ですので、しばらく「燎原」を購読したいと思っています。郵便振替口座に料金を振り込んで申し込みます。

体験から戦後史を語る

宮城日出年（宇治市）

80歳を迎えた私は、敗戦（12歳）から安保体制への変動を、10代の多感な時に過ごし、その中で社会変革の運動に加わりました。この体験を多くの人たち、とりわけ若い人たちに語ろうと決心しました。専門家でも学者でもありません。ひとりの「語り部」として、安倍政権の暴走にストップをかける力に加わることを念じます。（6月20日に西小倉集会所で開かれたつどいのビラから）

情報スクラップ

甥の薫さんが思い出語る

国領会10周年記念集会

国領五一郎を顕彰する京都の会結成10周年記念集会が6月21日、ルビノ堀川で行われ54人が参加しました。

国領五一郎の甥、国領薫・トシ子夫妻も参加し、薫さんが小学校2年のとき堺刑務所で初めて叔父に対面したのが遺体であったことや母から聞いた叔父の人柄などをリアルに語り、初めて聞くリアルな内容に思わず涙する人もありました。

先立って開かれた第8回総会では若宮修会長、松下嵩事務局長らが再選されました。写真は国領薫さん。

自由法曹団京都支部が50周年記念誌

1963年11月に全国初の府県単位の支部として7人の弁護士で誕生した京都支部の50年の歩みを団員（現在75名）の寄稿で振り返るとともに、今日の政治反動に抗した取り組みを紹介している。昨年11月30日の記念シンポに合わせて刊行された。A4判238頁。

『続・立命館の再生を願って』出版

鈴木元氏が6月に風濤社から出版、ゼネコンの食いものにされた立命館の現状を批判するとともに、「学園憲章」に基づく志ある再生を提起する。京都の主要書店でよく売れている。本体1600円。

11月15日（土）には他の2冊の著書出版と古希を祝って京都タワーホテルでパーティーが計画されている。

編集後記

▼7月5日の総会では初めてお顔を見る会員もおられて盛況でした。タイムリーな講演に関心が集まったのだと思います。本会の果たすべき役割がますます重要になってきていることをひしひしと感じました。懇親会では「燎原」への意見や要望をお聞きしたのですが、一層魅力的な誌面づくりに努力し、会員が増えてくれればと願っています。

▼私が「燎原」の編集を引き受けたのは2007年5月から。もう7年目に入ります。今年、喜寿を迎えていつまで続けられるか心配ですが、お元気な岩井忠熊・名誉代表に肖ってもうしばらく頑張ります。

▼好評だった連載「この一枚」を復活しました。アルバムや古い印刷物に珍しい写真があれば提供してください。「忘れ得ぬ人」「その時、私は……」などの原稿もよろしく。（湯浅）